

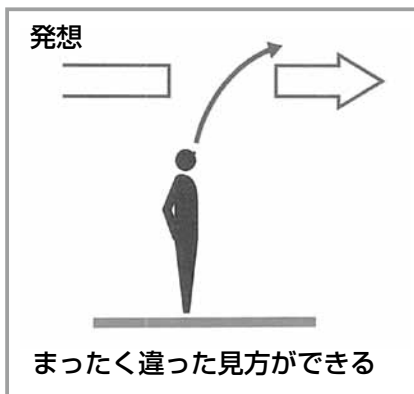
# アクティブ・ラーニングを超えて ～自分で自分を成長させる次世代教育～

# 2w-0

コンピテンシー

Archiect 未来教育クリエイター / 鈴木敏恵

プロジェクト学習の基本フェーズで  
創造的な思考……未来（ビジョン）を描ける力



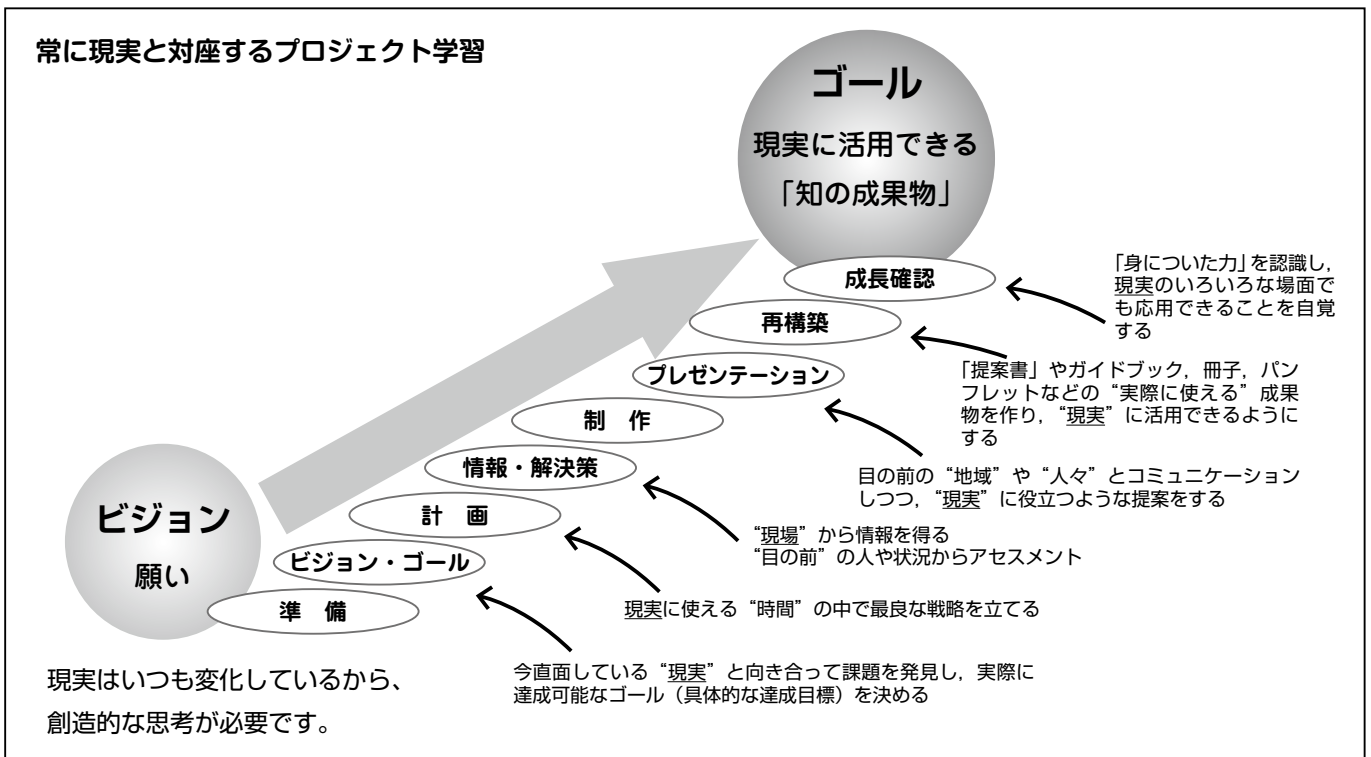
著者：鈴木敏恵『キャリアストーリーをポートフォリオで実現する』p67

出版予定の新刊原稿のため一切の無断転載・翻訳等を禁ず。  
教育機関で使用される場合は、必ず出典 [『創造的な思考をかなえる次世代教育の設計思想 2015』論文 鈴木敏恵] を明記してください。

# 「創造的な思考」プロジェクト学習の基本フェーズ

## 理論展開① ……創造的な思考のステージは《現実》

- 1) プロジェクト学習には、教科書も教材もありません。
- 2) 成長するために存在するのは教科書でなく、自分の目の前の「現実」です。
- 3) プロジェクト学習に不可欠なのは、目の前の「現実」そのものです。
- 4) プロジェクト学習の題材を意識し現実を見ます＝無意識から意識化
- 5) 学習者は、現実と対座し、現実から課題を見だし、現実から情報を獲得し、  
現実には有効な課題解決を創造的に考え出します。

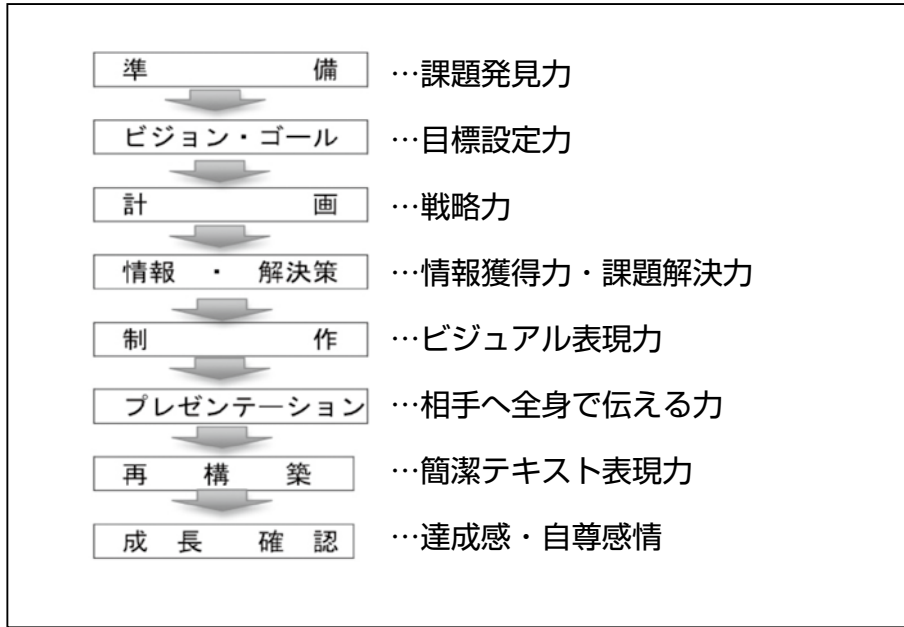


## 理論展開② ……各フェーズで“使える力（再現／能力）”を身につける

- 1) プロジェクト学習には目標達成の基本フェーズが存在します。
- 2) フェーズごとに、創造的な思考をベースにする「新・修得知」を身につけます。
- 3) 身につく力を学習者は「ああこういうふうになればいいのか（思考回路ができる）」と自覚しま  
す→自覚することで、再現できる、いつもできる恒常性。

**理論展開③** ……各フェーズにおける目標と評価

- 1) 各フェーズではその活動で生まれる（手に入る）『成果』とそこでの『成長』を目標とする。
- 2) 次のフェーズに行く前に、そのフェーズで獲得した『成果』と『成長』を自分（チーム）で評価する。（評価の捉え方 注意）

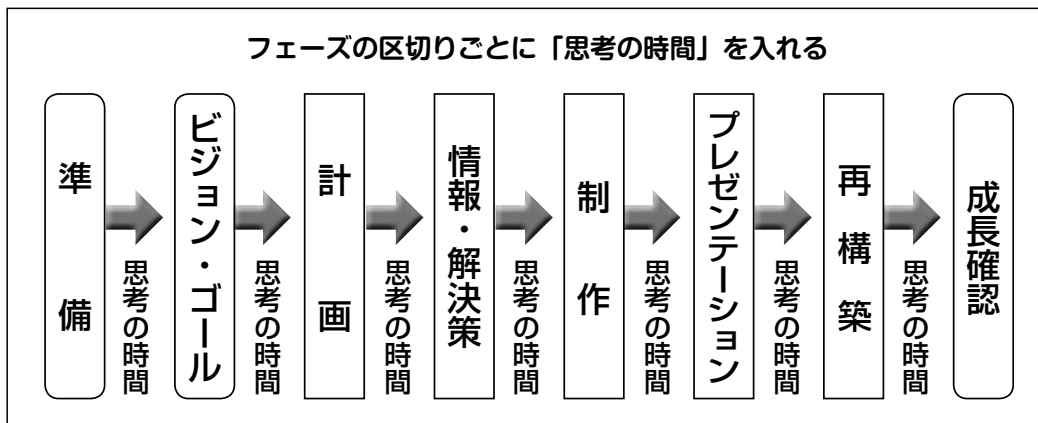


「汎用的能力」  
↓  
General ability  
アビリティ（能力）、（ニュアンスとして）遺伝的な素性をもつもの、スキル（技能）は習得するもの。  
アビリティはスキルよりも不変なもの。

★未来教育4つの新・修得知の表現  
↓  
社会の中である能力より普遍性ある感性を求めたい。  
社会や仕事という面からでなく人間という存在から普遍性という哲学的な表現を使う。

**理論展開④** ……各フェーズの『活動の時間』と『思考の時間』

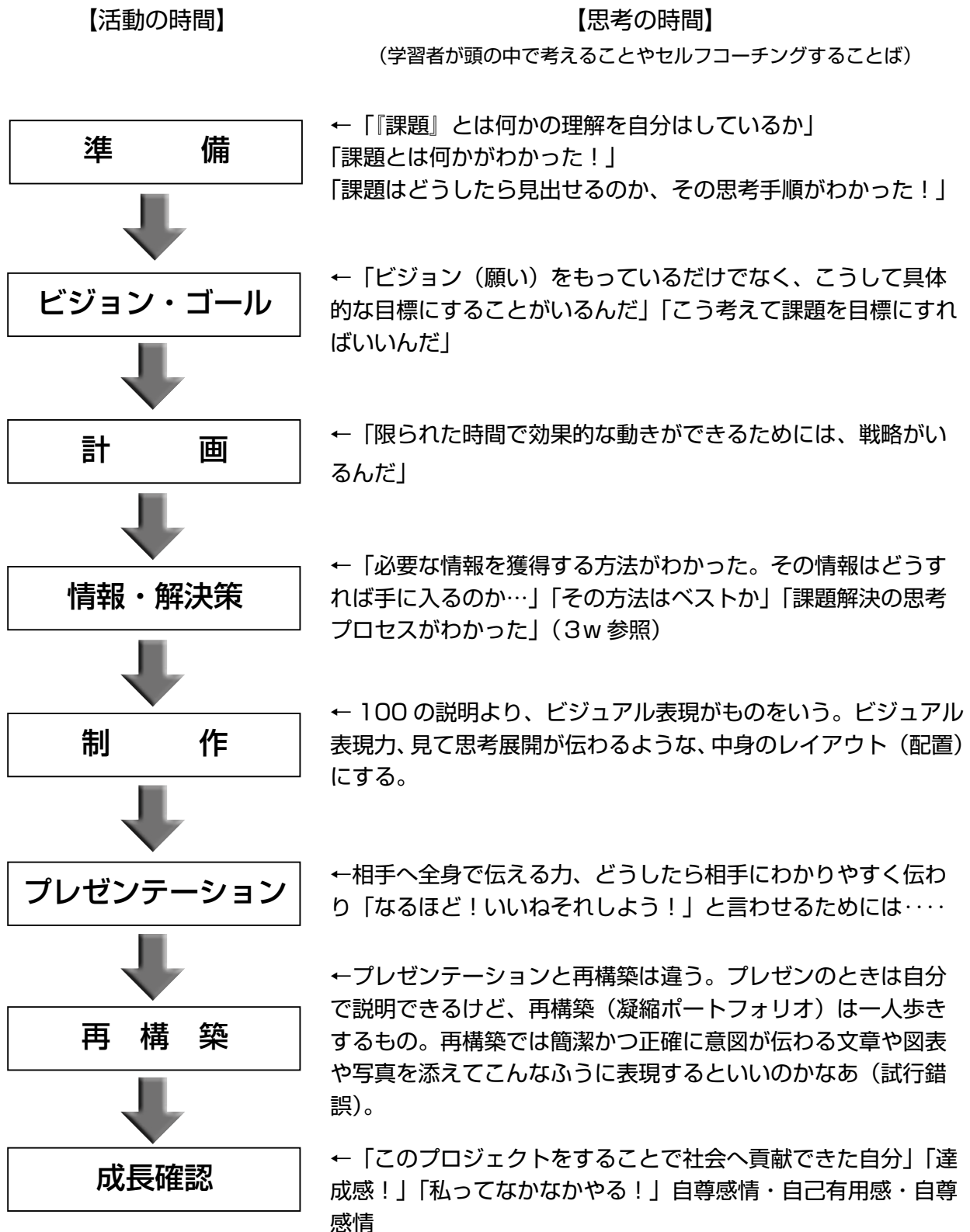
- 1) すぐやる（活動する）のではなく自分で戦略的に考えて（思考）動くことで成長できると知ります。
- 2) 基本フェーズごとに「思考の時間」と「活動の時間」を明確に分けて持ちます。
- 3) フェーズで活動する前に「思考の時間」で、現実をふまえどう動くか戦略を立て目標設定します。
- 4) フェーズの活動の後の「思考の時間」でポートフォリオでリフレクション、セルフコーチングします。
- 5) 成果と成長を見ます（評価）。



アクティブは、活動の形態であり、目標ではない。  
頭の中でアクティブであればよい。

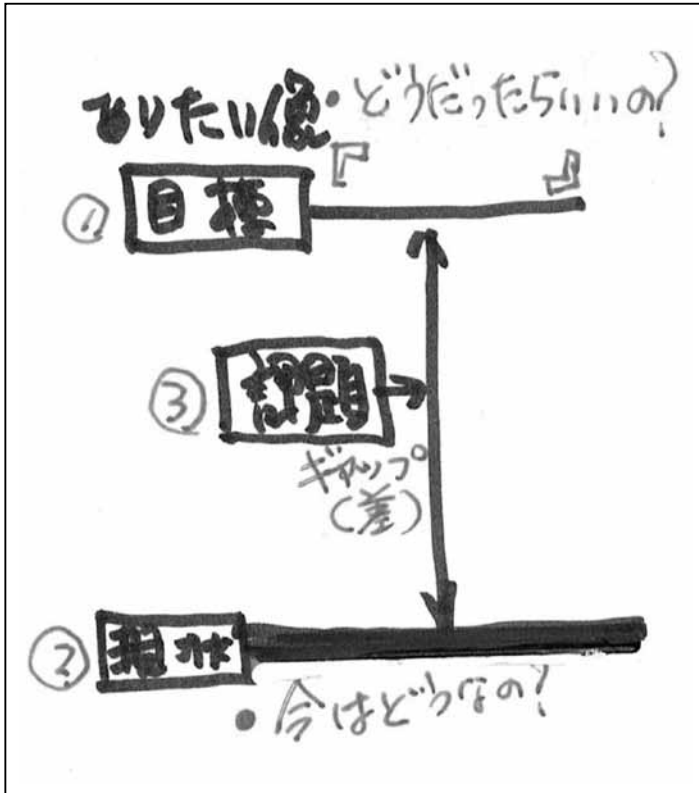
理論展開⑤ …… 【思考の時間】 で次のようなことを考える

教師は、フェーズごとに活動させるのではなく、フェーズごとに学習者が成長するために、学習者を鋭く観察しつつどんな関わりができるのか、工夫できるすべてのことを創造的にする。



## [準備] のフェーズで「課題発見力」を身につける思考プロセス

課題発見力が大事。プロジェクト学習者は、自らの意志で課題を見出すところから始める。



### ■ 『課題発見』の思考プロセス

- 「課題」とは何かの理解
- そもそも「ありたい状態」をもっているか
- 現状を見る 無意識から「意識化」
- 多面的な見方 (3W 思考力、判断力)

すべてポートフォリオへ

いろいろなことに気づく

多面的な見方で、たくさんの情報を得る

# 意志ある学びープロジェクト学習コーチング

～「思考の時間」…静かに自分に問おう～

未来教育デザイナー 鈴木敏恵

## プロジェクトへの意志

- 「心から納得」して向かう「ゴール」ですか？ その意義を語れますか？
- このプロジェクトの「コンセプト」と「全体の流れ」を理解し、つかんでいますか？

## ミッションとチームワーク

- プロジェクトチームの「目標に対する働き」は、果たしましたか？
- 自分と違う意見に対しても、「考え方を交換」できましたか？
- そこで自分の役割を果たしましたか？
- やりとりや作業は、口頭、文書、インターネットなどいろいろな手段を使用しましたか？

## 情報の獲得

- それは「確実な情報」ですか？
- 情報源である「現場」へ足を運びましたか？
- 情報リサーチ（本・人・現地）に必要な準備は十分ですか？
- 様々な情報を「総合的」に受けとめ、有効に使用しましたか？
- 本、新聞、インターネットなどの特性を考えながら、「適した情報手段」を使用しましたか？
- 使う情報（名前や写真の掲載）は「誰かを困らせない」ですか？
- 月日・時間・場所・状況・確認先・担当者などの記載はありますか？
- 「情報の確かさ」は、どうしたら確認できるか考えたことはありますか？



著者：鈴木敏恵

出典『こうだったのか!! ポートフォリオ 成長への戦略 思考スキルと評価』2002

## フィードバック

- 寄せられた意見や考えを受け入れ、さらに「発展」させましたか？
- 協力して下さった人に、感謝と報告をきちんと伝えましたか？
- 各フェーズごとに「成果」をきちっと出し、みんなと「共有」しましたか？
- この学習で何を学び、どんなことを発見しましたか？（具体的に）
- どんなことができるようになりましたか？（具体的に）
- このプロジェクトと「世の中との関わり」を考えてみましたか？

## プレゼンテーション

- 参加者のことを考え「反応を確認」しながら進めましたか？
- 掲示の「タイミング」や「見やすさ」はよかったですか？
- 今回のプレゼンテーションで得たことは何ですか？

## 成果

- 「オリジナリティ」はありますか？ 「クオリティ」のよい作品ですか？
- 「必要」な情報が、「簡潔」にわかりやすく盛り込まれていますか？